

Y09b 緯度観測所の応召記念写真に記録された水路部水沢分室

馬場幸栄（一橋大学）

水路部は東京空襲のあいだも天体暦の計算を継続するため、昭和19年から昭和20年にかけて日本各地に疎開して、疎開先に水路部分室を設置した。岩手県水沢の緯度観測所（現・国立天文台水沢VLBI観測所）が作成した『緯度観測所略史（案）』という年表には、そのひとつ「水路部水沢分室」が昭和19年8月14日より緯度観測所内に置かれたこと、同日より水路部の鈴木敬信技師ほか「技工士二名」（女性）と「新規採用の軍属十名」が作業を開始したこと、昭和20年3月1日に水沢高等女学校へ移転するまで水路部水沢分室は緯度観測所内にあったことが記されている。だが『緯度観測所略史（案）』に見られる水路部水沢分室の情報は以上で、「技工士二名」や「新規採用の軍属十名」がいったい誰のことを指すのかは長いあいだ不明のままだった。ところが最近、国立天文台水沢VLBI観測所に現存する緯度観測所ガラス乾板から当時の写真を復元したところ、鈴木敬信技師ら水路部水沢分室の室員たちが写っている集合写真が発見された。この写真は緯度観測所所員の応召記念に水沢の駒形神社で撮影されたもので、応召者に贈られた寄せ書き付きの日の丸もはっきりと写り込んでいる。この寄せ書きを手掛かりに、水路部水沢分室の「技工士二名」および「新規採用の軍属十名」の一部を特定することができた。